

平成27年度第1回国指定史跡会下山遺跡整備・活用検討委員会 会議録

日 時	平成27年5月29日(金) 14:30～16:30
場 所	三条分室201室及び国指定史跡会下山遺跡
出席者	委員長 安部 みき子 副委員長 藤川 祐作 委員 江守 易世 委員 近田 真 委員 仲谷 由利子 委員 野間 靖雅 (欠席) 委員 大久保 文昭 委員 星野 剛一 (事務局) 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋 生涯学習課文化財係学芸員 森岡 秀人
事務局	生涯学習課
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	2人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題・報告

- ①国指定史跡会下山遺跡の現状及び今後の課題について
- ②三条文化財整理事務所の現状及び今後の課題について
- ③その他

2 提出資料

パンフレット『弥生時代の高地性集落 国史跡会下山遺跡』

3 審議経過

(安部委員長)

それでは、本日の次第に従いまして、ただ今から議事に入ります。

はじめに、この委員会について、芦屋市情報公開条例第19条の規定に基づき公開を原則にしたいと思いますがよろしいでしょうか。非公開とすることができる場合は、非公開情報が含まれる場合や、公開することにより円滑な運営ができなくなる場合に限られます。なお、公開にしたからといって、皆様の発言が制約されるものではございませんので、率直なご意見をお願いします。また、本日は、傍聴される方が2名おられます。

(全委員)

<異議なし>

(安部委員長)

それでは、議題（１）「国指定史跡会下山遺跡の現状及び今後の課題について」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局：竹村)

本日は、今から国指定史跡会下山遺跡と、今後、史跡のガイダンス的施設を担うと考えられる三条文化財整理事務所を実際に見ていただき、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。本日現地で見えていただいた課題は、今後、本委員会で話し合っていくことになると思いますので、そのような視点を踏まえて現地をご確認いただきたいと思います。

<国指定史跡会下山遺跡へ移動>

<会下山遺跡入口付近において>

(江守委員)

この上り坂の道をあがってきても、会下山遺跡への入口への案内表示がすぐには見えません。もっと登り道の手前にあってほしいです。

(藤川副委員長)

この入口までのアクセスに対するサインがまったくありません。たとえば、JR芦屋駅や阪急芦屋川駅に会下山遺跡へ見学に行きたい人が来ても、すぐにわかる解説板や地図が見当たりません。三条分室まで来てからでも肝心の会下山遺跡の入口のアクセスがわかりません。

(江守委員)

チェーンから聖苑側に人が入ると、セコムが鳴ります。夜によく鳴っています。

(仲谷委員)

会下山遺跡入口を示す看板を山側フェンスに設置したらどうでしょうか。ただし、フェンスの向こう側にある土石流の看板が見えなくならないように気を付けないといけません。

(安部委員長)

フェンス入口部分の看板を、扉部分に移動した方が見やすいと思います。

(近田委員)

イノシシが出てきて、外に出ると、道を下って町へ出てしまいますので、山を囲むようにフェンスを設置しています。イノシシは町でいろいろ悪さをする場合があります。

(仲谷委員)

前回にも言いましたが、会下山遺跡のフェンスの入り口部分に遺跡のリーフレットを常時置くとよいと思います。

(藤川副委員長)

パンフレットを入れておくケースを用意するのがいいです。雨が降っても、資料が傷まないようなものの方がいいでしょう。

<登山道において>

(仲谷委員)

鬱蒼としていて、夕方の歩き道としては、危ないです。道が痩せている部分は何ヶ所もあり、団体歩行の時や雨の時に危険な感じです。

(安部委員長)

砂防のため、金属製の杭を打ち込んだ状況がよくわかります。メッシュのように山肌に打ち付けられていますね。

(江守委員)

国土交通省六甲砂防事務所によって、砂防のために金属製の杭が打ち込まれています。当初は植物に覆われて目立たなくなると聞いていましたが、山肌が露わになり、以前より目立っています。

(仲谷委員)

この道では狭すぎます。大雨でもくると、危険です。もっと手すりを増やす方がよいと思います。手すりはあるにはあるが、心もとない感じです。道が狭く曲がるところが多く、暗いと危なっかしい、すべりやすいです。

< C・E地区竪穴住居跡において >

(事務局：竹村)

会下山遺跡では、毎年2回草刈清掃を行っています。10月には芦屋ライオンズクラブを中心にボランティアのみなさんが早朝から行って下さっています。遺構は昭和30年代の発掘調査後、

埋戻しをせず、その面に直接芝を張っています。登山道は侵食されていていっています。C地区住居跡の解説板は、水平に立ててもすぐに斜めに傾斜してしまいます。基礎の土が動いているのかもしれない。

(仲谷委員)

国史跡の案内板は、東のベンチ付近にも同じものが必要だと思います。遺跡の全体像を理解できるような解説板が少ないと思います。ここを下ると山手中学校へ抜けられないので行き止まりという趣旨の看板については、今の場所だと「見学も禁止」と受け取られそうなので、下の触覚模型あたりに移してはいかがでしょうか。

(安部委員長)

ベンチ基礎の土が流出しています。土を入れないとぐらつくことになりませんか。

(藤川副委員長)

C地区あたりからの眺望を良くしなければなりません。昭和30年代は樹木はもっと小さかったのですが、この数十年間に大きくなり、眺望を遮っています。会下山遺跡に最初にたどりついた所が見通しが悪い状況では、感動しないと思います。

< F地区堅穴住居跡において >

(事務局：竹村)

この平坦地が、会下山遺跡で最も大きな堅穴住居跡であるF地区堅穴住居跡です。村長の家、あるいは共同の作業場、集会所のような役割が考えられています。他の堅穴住居跡より少し高いところでやや役割を異にする場所があったということです。この登山道の東側の平坦地にも住居跡は広がります。この場所での問題点は、地表に晒されている遺構の上に登山道が走っていることです。既に削られたような状況となっており、保存の上で大変問題になります。会下山遺跡を国指定史跡に指定する時にも、調査委員会において大きな課題としてすでに指摘されています。

(仲谷委員)

F地区住居跡は、その存在がわかりません。解説板にイラスト等を入れる工夫、遺構の周りを明示する工夫が必要だと思います。解説板に集落の中での大きさや役割などが説明されているようですが、もっと視覚的にイメージが分かる図や写真等がないと、実感が湧かないと思います。それは各所で同じことが言えると思います。解説板の増加を望んでいます。解説板は、同じものでも場所をかえて複数設置してもいいと思います。

< Q地区祭場跡において >

(事務局：竹村)

Q地区の祭場も、F地区と同じように遺構面を横断する形で登山路が通っています。

(仲谷委員)

このQ地区も祭祀の実態，施設や当時の弥生人の動きがわかりづらいです。何かわかりやすい図やイラスト等が必要だと思います。神に拝んでいるところとか，マツリで踊っているようなイラストがいるのではないのでしょうか。

< S地区祭場跡において >

(事務局：竹村)

S地区は，会下山遺跡が高地性集落であることを実感できる最も眺望の良い場所です。S地区の祭場跡は円形の窪みとして今も残っています。草がかなり生えていますが，茂っている方が人が直接入らないので，遺構が踏み荒らされることを防いでいます。中央には大きく深い穴があり，今も確認できます。

(野間委員)

S地区祭場跡の解説板は，現状よりもっと東側に設置すべきです。

(江守委員)

遠い場所の景色が最高に良いと思います。ただ，すぐにこの見晴らしのよいこの場所にくるので，登山路のすぐ右手にあるS地区の解説板が目に入りません。通り過ぎてしまい，この場所が何であるかを理解していただけないと思います。解説板に工夫が必要と思います。両面に解説をつけるか，ここに移動させるかといった工夫が必要と思われれます。

(安部委員長)

S地区には，よく展望台にあるような方位や遠景に見える諸施設の名称等を記した説明板を設置した方がいいと思います。

(仲谷委員)

S地区祭場跡は，その存在がまったくわからないので，遺構の範囲を明示する必要があります。解説板は，やはり説明文だけだとイメージが湧きにくいです。何か絵がないと。ここからはサルボウ貝などがたくさん出ていると聞いていますが，どんなふうに使われたとか，高杯が多いとかいうこともビジュアルな形で表現されるとおもしろいと思います。

(遺跡北限，堀跡周辺において)

(事務局：竹村)

この場所が会下山遺跡の最も北の端で、堀跡が二重に確認された所です。S地区の解説板も見ずにここまでくると、どこまでが遺跡か、国史跡の範囲が分からなくなりますので、解説板に遺跡はここまでと明示しました。堀は集落のどれくらいの範囲を取り囲んでいるのかは明らかになっていませんが、現状でこの窪んだ部分に尾根筋を切るように掘られていました。断面は切り立ち、堀であることが明瞭な堆積があり、埋まった状態で確認されました。この付近からは遺物は出土しておらず、集落の端であると考えられます。

(安部委員長)

堀のあった場所はわかりにくいです。ここから六甲の方に行けるのですか。

(藤川副委員長)

この登山道を進むと、風吹岩と呼ばれる登山者がよく知っている表六甲の登山コースがあり、東灘方面からの登山路と合流します。保久良山・金鳥山などからくる道と合流し、あと北に行くと、ゴルフ場・東おたふく山があり、六甲山地最高峰と連なります。

<N地区・X地区堅穴住居跡付近において>

(事務局：竹村)

ここから登山道を下っていくと、山手中学校にたどりつきますが、今は第三者が中学校に立ち入らないように登山道に行き止まりの看板を設置しています。東方尾根には堅穴住居跡等の遺構が保存されています。

(江守委員)

危ない坂道だと思います。土が流れ、登り下りの木の階段も下側の土を失い、ぐらついています。早く修理する必要があります。

(仲谷委員)

L字状の鉄製の留め釘がしっかりしており、靴が引っかかるとつまずき、人が怪我をしやすと思います。

(野間委員)

やや砂地なので、すべりやすいです。上からの流出の続きで、土が流れている感じです。

<J地区復元高床倉庫付近において>

(事務局：竹村)

このJ地区には、高床倉庫が復元されています。唯一弥生時代の遺跡のモニュメント的な存在です。昭和63年に復元されて以来、とくに大規模な補修はしていません。屋根の茅葺きが半分傷んできていますが、今年度に修復する予定です。

(藤川副委員長)

復元高床倉庫に影響がある大木は伐採する必要があると思います。

(安部委員長)

この地区の中には入れないのですか。

(事務局：竹村)

今は入れませんが、復元高床倉庫まで近づけるようにすることも考えないといけないと思います。

<触覚模型付近において>

(事務局：竹村)

この場所には、かつて竪穴住居が復元されていたのですが、昭和56年に全焼し、その後にこの模型が造られています。

(仲谷委員)

傷みがひどく、抜本的に造り替えないといけないし、汚れがひどいです。触覚模型は石でできているのですか。

(事務局：森岡)

ガラスセメントでできています。

<三条分室へ移動、三条文化財整理事務所の出土品展示コーナーにおいて>

(野間委員)

子どもの会下山遺跡見学ツアー等を計画してみてもどうでしょうか。

(事務局：竹村)

いいと思います。これまで実施したものでしたら、子どもを対象にした体験学習等は確かに人気があります。毎年、公民館で行なっている勾玉づくりには、30人募集のところ60人以上の小学生の応募があります。

(安部委員長)

土器等を触ってもいいコーナーなどがあるといいと思います。

(近田委員)

三条文化財整理事務所がバリアフリーになればいいと思います。階段があるので、上がってきやすくする工夫が必要です。

(事務局：竹村)

今日は会下山遺跡の現地と三条文化財整理事務所の展示コーナーをご覧いただき、時間となりました。次回以降にご議論いただく現地の前提的なことを実際に見ていただけましたので、今後の議論の素材にしていただきたく思います。

(安部委員長)

只今、会下山遺跡及び三条文化財整理事務所の現状についてご確認していただきましたが、気づかれた課題やアイデア等、ご意見があればお願いします。

(藤川副委員長)

芦屋駅の東側の下を通るトンネルの壁絵に会下山遺跡を題材にした絵が描かれてもいいと思います。会下山遺跡を写生大会に使うようなことがあってもいいです。山手幹線の芦屋川トンネル歩道にもあります。

(近田委員)

夏休みの宿題なんかに、会下山遺跡等をテーマにしたものがあってもよいと思います。

(仲谷委員)

市役所の中にも、展示ケースの中に会下山遺跡出土品が常時展示されたらいいと思います。

(安部委員長)

他にご意見等ございますでしょうか。

(各委員)

<意見等なし>

(安部委員長)

次に「3.その他」について、何かございますでしょうか。

(事務局：竹村)

ございません。

(安部委員長)

それでは、本日はこれですべて終わりました。本日は、これで検討委員会を終了いたします。
ありがとうございました。

<閉会>